

富山県小矢部市

白谷岡村遺跡

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1995

小矢部市教育委員会



白谷岡村遺跡 貯藏穴群

富山県小矢部市

白谷岡村遺跡

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1995

小矢部市教育委員会

序

白谷遺跡群は平成元年より白谷地区七地改良事業が施工されることとなり、その工事に先立ち小矢部市教育委員会が平成元年より発掘調査を実施いたしました。当遺跡は昭和54年より昭和60年まで実施された分布調査において発見され、その成果は当該年度発行の調査概報・遺跡地図・台帳（小矢部市教委他 1985）に記載され周知化が図られた。

この白谷遺跡群においては縄文時代草創期の生活跡の検出から始まり律令期・中世期の集落跡が豊富な遺物とともに検出される等、大きな成果を上げました。

しかしながら得られた資料の多くは現在整理途上にあり、本書に盛込むことができる状況ではありません。本書においては本年度調査区の中からいくつかの遺構を取り上げ、概要を報告することといたします。

最後になりましたが、調査にあたりご協力いただきました地元・土地改良区の方々はじめ関係各位に心から感謝の意を表する次第です。

平成7年3月

小矢部市教育委員会
教育長 岩峯 敬正

例 言

1、本書は平成6年度に小矢部市白谷地区土地改良事業に先立ち実施した、白谷岡村跡の本調査の概要報告である。

2、調査期間はつぎのとおりである。

平成6年4月21日～平成7年3月24日

3、調査は、事務局を小矢部市教育委員会内におき、国庫補助並びに県費補助金の交付を受け小矢部市教育委員会が実施した。

4、調査参加者は以下のとおりである。

調査担当者 伊藤隆三(小矢部市教育委員会社会教育課文化財係係長) 塚田一成(同 主事)

調査作業員 茶木幸作、高瀬友治、高橋正次、山崎三郎、川原達雄、前田安二、立崎政一、

藤井進一、八十島喜太郎、前田信成、森田敬八、岡本正穂、野村三郎、岡村吉義、

表一夫、山田乍作、中山正雄、茶木長一、嘉津山武雄、蟹谷百合子、高山恵子、

森谷奈利子、山田信子(埴生)、吉田綾紀子、河内スミ子、中橋雪子、中田夏子、西村不二子、

南よし子、久井夏子、八十島節子、八十島昭子、川原きくい、宮本かをり、瀬戸節子、

高田芳子、野沢敏子、本田喜代子、山本悦子、吉田寿子、上山文子、上島和子、

谷川澄子、青島笑子、山田信子(水落)坂井久子、高崎みよき、岡本久栄、上野小富、

武部美都子、中山エミ子、南雪枝、石原雪代、寿時シメ子、山下清子、藤田初子

5、調査期間中は地元白谷地区皆様には飲料水等の提供などたいへんお世話になった。

記して厚くお礼申し上げる。

6、本書の編集・執筆は、文化財係長伊藤隆三が補佐し、塚田が行った。

7、現地調査及び遺物整理にあたっては坂井秀弥氏(文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官)、西井龍儀氏(小矢部市文化財保護審査委員)、島田修一氏(富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事)、河西健二氏(富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事)の各氏の外多数の方々のご指導を賜った。記して謝意を表した。

8、出土遺物および図面・写真類は小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目 次

| | |
|------------|---|
| I 遺跡の位置と環境 | 1 |
| II 調査の経過 | 7 |
| III 調査の概要 | 9 |
| 図版 | |
| 発掘調査抄録 | |

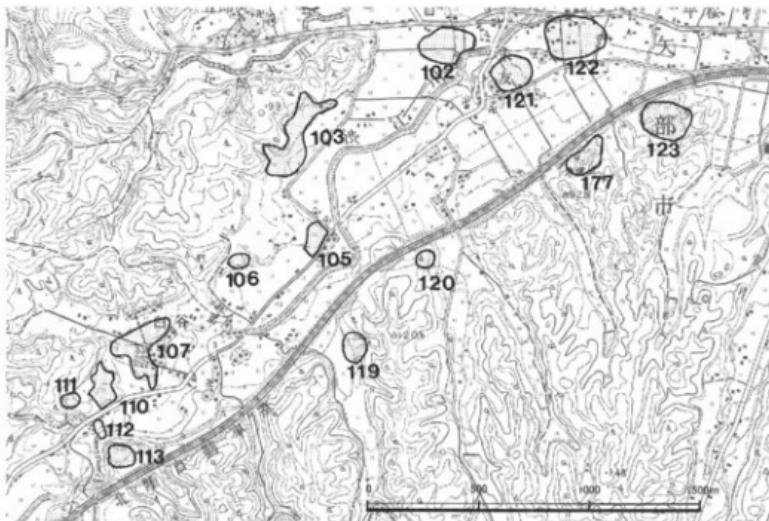
I 遺跡の位置と環境

富山県の最西端に位置する小矢部市は、南北と西側の三方を砺波山・蟹谷両丘陵に囲まれ、東側は散居村地域として知られる砺波平野が広がり、渋江川・子撫川等を合わせ北流する小矢部川が市域を二分している。この小矢部川左岸から三方の丘陵地にかけての段丘上は砺波地方では最も安定した地域であり、県下でも有数の遺跡密集地帯を現出している。

白谷遺跡群は市域南西部の白谷地区に所在し、小矢部川の支流渋江川の両岸に広がる。一帯は渋江川の両岸に沿って段丘が発達するものの、浸食作用により複雑な地形を形成し、遺跡の多くは標高55m~75mを測る段丘上に立地する。

この白谷遺跡群には白谷岡村遺跡をはじめ多くの縄文時代の遺跡が分布することが知られてきたが、平成元年・2年と一帯の試掘調査を行った結果小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡では新たに奈良・平安～中世期に至るまでの集落の存在が明らかになった。

今回調査を行った白谷岡村遺跡は渋江川左岸に広がる段丘の先端部に位置し、標高は68~75mを測る。当遺跡は、以前より石動高校地歴班や桜井仁吉氏による試掘、富山県史等で知られており、県下でも縄文時代中期の代表的な遺跡の一つである。



第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

102.向島遺跡 103.川瀬新瀬跡 105.白谷竹屋橋I遺跡 106.白谷八幡宮遺跡 107.白谷岡ノ城北遺跡 110.白谷岡村遺跡 111.白谷遺跡 112.白谷粉分II遺跡 113.柿ヶ原I遺跡 119.小白山山麓遺跡 120.本友曲遺跡 121.木友遺跡 122.勝興寺安養坊遺跡
123.平松遺跡 177.火燈山遺跡



白谷岡村遺跡（調査区遠景南より）



白谷岡村遺跡（調査区遠景西より）





第3図 白谷同村遺跡全体図 (S=1/500)

II 調査の経過

今回調査を行った白谷岡村遺跡は、石動高校地歴班や櫻井仁吉氏による試掘、富山県史等で古くよりその存在が知られていた。

昭和63年11月に白谷地区のは場整備事業の実施について照会があり、調整協議がもたれた。事業名称を「白谷地区土地改良総合整備事業(区画整理型)」とし、平成元年着手同5年完了、面積54haである。平成元年3月に工事施工対象地を再度分布調査し、各遺跡の位置・範囲を確認し、それとともに協議を行い平成元年6月・10月に岡ノ城北遺跡A地区と竹屋櫛I遺跡の試掘調査を行った。平成2年6月から11月まで白谷岡ノ城北遺跡・白谷岡村遺跡・白谷柄分I遺跡・白谷八幡宮遺跡・小白山山麓遺跡の試掘調査を行い、工事施工範囲内の遺跡範囲の確定を完了した。

また12月には白谷岡ノ城北遺跡C地区内約1,000m²について本調査を実施した。

平成3年5月の協議において小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡A～C地区の保護策を検討し工事施工によって削平せざるをえない部分約6,600m²について本調査を行った。

平成4年度は小白山山麓遺跡の削平部分約1,000m²と白谷岡ノ城北遺跡A地区約3,200m²について本調査を行った。

平成5年3月、地元土地改良区：高岡農地林務事務所；市教育委員会の3者協議を行う。協議において白谷岡村遺跡の全面保存は難しく、西側約半分と白谷柄分遺跡は盛土工法として残し、白谷岡村遺跡東側約13000m²を平成5年から7年までの3ヶ年で本調査することとした。平成5年4月より調査対象区の北側約5000m²について本調査を開始し行った。

平成5年度の調査では住居域の一部と遺物廃棄場の一部を検出した。遺物廃棄場では、膨大な量の土器・石器の出土を見たが現在整理の途中にある。

平成6年度は4月より調査対象区の中央部分3,600m²について本調査を行った。

発掘調査日誌

平成6年 4月26日 現場準備。

5月10日 ベルトコンベア配置。4-3区掘り下げを行う。

5月30日 10区表土排除。9区第2層直上精査。4-3区斜面遺物群の精査。

6月13日 遺物の取り上げ。

6月23日 8区掘り下げ。礫集中区がある。11～13区掘り下げ。ベースは東から西へ傾斜する。

7月5日 8区掘り下げ、遺物多い。11～13区表土排除。一部分で、黄褐色ベース検出。遺構が検出されそう。

7月12日 8区掘り下げ。黒色土層中遺物の出土が非常に多い。石器の出土。

7月18日 4-3区黒色土(包含層)掘り下げ。8区で集石あり、遺構として取り扱うか。

8月3日 石匕、黒色土包含層掘り下げ。

8月9日 4-3区先端部掘り下げ。気泡式土器出土。

8月25日 11区掘り下げ。

8月31日 谷部河床標中より旧石器時代のスクレイバー出土。

- 平成 6 年 9月 1 日 谷部土塁よりドングリ等堅果類検出。
9月14日 航空写真撮影。
9月27日 貯藏穴掘り下げ。砂層と実の層がある。12区掘り下げはじめる。
10月 4 日 12区掘り下げ。貯藏穴掘り下げ。同穴が増え続ける。
10月 7 日 谷部全体精査。
10月13日 貯藏穴掘り下げ続く。貯藏穴下で、旧石器のユニット検出。貯藏穴一部掃除。写真撮影行う。
10月27日 航空測量。
10月31日 13区掘り下げ。S I-4掘り下げはじめる。
11月 2 日 13区掘り下げ。包含層検出の検査。
11月17日 ブレハブ等機材撤収。
11月25日 文化庁坂井文化財調査官現地指導。
12月12日 7区掘り下げ、包含層の検出を行う。
12月19日 新聞発表。
- 平成 7 年 2月14日 7区掘り下げ、遺構検出行う。遺構面のたち割り。
3月24日 現場撤収。



III 調査の概要

遺構と遺物

臼谷岡村遺跡は渋江川左岸に広がる段丘上に立地する。今回の調査ではこの段丘中位と西側の谷部を調査した。調査の結果、遺構面は段丘上から緩やかに西側谷部へと下る。段丘上には住居跡6棟、やや下った斜面には掘立柱建物3棟以上が、隣接した谷底には貯蔵穴が153基密集した形で検出できた。また、昨年検出した遺物廃棄場の南端を検出しその範囲を確定した。また、貯蔵穴検出面下5cmで旧石器時代末から縄文時代草創期に属すると思われる石器群を検出した(第5図)。谷底の河床疊層中からも旧石器時代末に属すると思われる石器(第6図)が出土しているが、前者の一群よりやや古いと思われる。

旧石器時代・縄文時代草創期

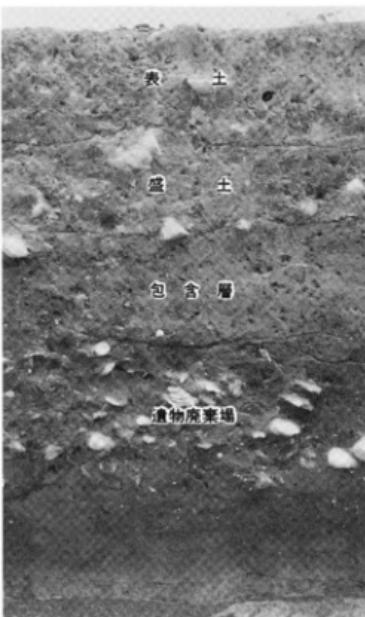
河床疊層中の石器について(第6図)

谷部精査中に検出された石器は旧石器時代末に属すると考えられるが、流路堆積中の出土であるため、各の石器には若干の時間差がある。調査中、出土地点周辺・上流部で可能な限りの下層確認を行ったが石器群本体の検出には至らなかった。

出土した石器は搔器・削器・使用痕のある剥片・素材剥片等である。

下層検出の石器群について(第5図)

下層から検出した旧石器時代末から縄文時代草創期に属すると思われる石器群は、大半を貯蔵穴掘削によって破壊されており、組成等全体を掌握することができなかった。出土した石器群の大半は破片・表皮のついた剥片で、ハンマーと思われるものが1点のみであった。このことより当地において初段階の制作を行い未完成品のみを持ち出した可能性が考えられる。



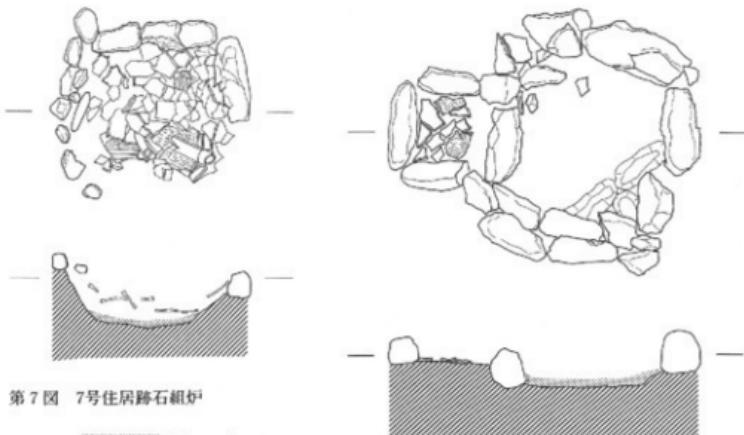
第4図 遺物廃棄物断面



第5図 ユニット検出状況（旧石器時代）



第6図 河床疊層内出土石器（旧石器時代～縄文時代草創期）



第7図 7号住居跡石組炉

■ 焼上

■ ベース上

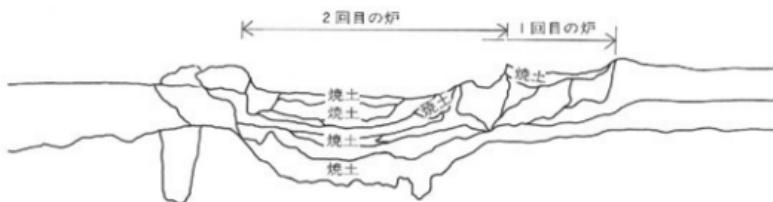
第8図 9号住居跡石組炉



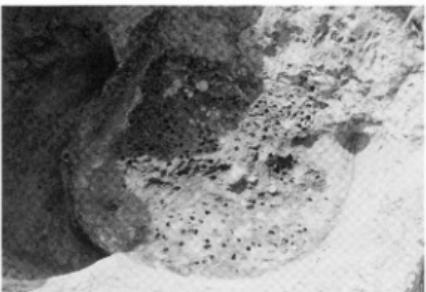
第9図 6号住居跡1・2号炉



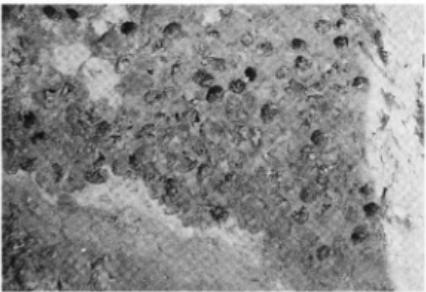
第10図 6号住居跡3号炉断面



第11図 6号住居跡炉断面図



縄文時代中期・後期



第12図 貯蔵穴内出土状況

包含層・遺物廃棄場出土土器より遺跡の存続幅は縄文時代前期末(朝日下層式)から後期初頭(気屋式)まで存続することが分かっている。ここでは当遺跡がピークを迎える縄文時代中期中葉から後期初頭までの遺構・遺物について概要を紹介する。

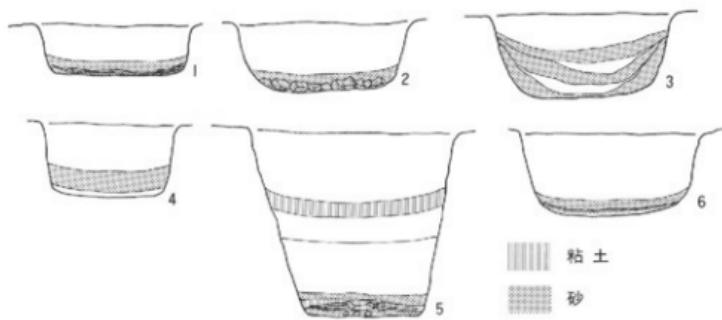
住居・建設跡 今回調査では炉を伴う住居跡 6 株、掘立柱建物 2 株以上を検出した。住居跡は上山田式期以降に属するものと串田新式期以降に属するものがあった(第 7 図—第 11 図)。掘立柱建物は住居跡が立地する段丘高位から標高で約 2 m 下がった谷部へ向かう緩やかな斜面で検出できた。西側に隣接した貯蔵穴群に伴う作業空間と考えられる。住居域と

掘立柱建物群・貯蔵穴群は一定の時期、一連の生活空間だったと思われる。

貯蔵穴群 今回の調査で 153 基の貯蔵穴が確認された。大きさは直径 1~2 m、深さ 0.5~1.5 m を計る。第 13 図で示したとおり 6 通りの貯蔵方法が確認された。

- 1 穴の底に木の葉を入れ、堅果類を納め砂を充填する。
- 2 穴の底に 5 cm ほどの礫を敷き、堅果類を納め充填する。
- 3 穴の底に船底状に砂を敷き、堅果類を納め砂を充填する。それを幾度も繰り返す。
- 4 穴の底に平坦に堅果類を納め砂を充填する。
- 5 穴の底に桜の枝を 3 本平行に並べ砂を充填し、樹皮等を砂の上に敷き粘土で固め、再度砂を充填し堅果類を納め、粘土で蓋をする。
- 6 穴に直接堅果類を納め木の葉で蓋をし、再度堅果類を納める。

上記貯蔵方法の外、穴の底に貯蔵穴の痕跡を残しながらもゴミ捨て穴に転用されたものもある。それらからは獸の骨・土器・石器等が検出されている。

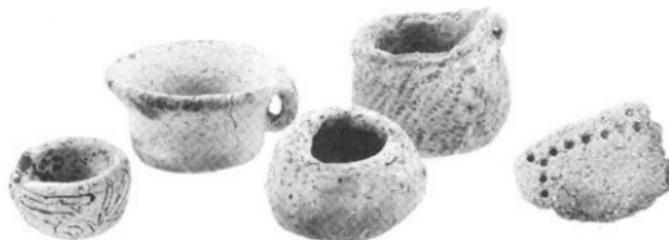


第13図 検出貯蔵穴の断面模式図

遺物廃棄場 この遺物廃棄場は南北35m、東西25m、深さ1.5mの広がり・堆積を持つ(第4図)。廃棄された遺物は朝日下層式から気屋式まで連続と検出している。廃棄の方法は一時期に斜面全体に満遍なく廃棄しており、断面では、各時期で斜面のベースにはば並行に古いものから堆積している。(但し、朝日下層式、新保式は極僅かしか検出されていないので層堆積は成していない)

1回の廃棄の単位は不明であるが、整理が進めば廃棄単位も若干判明する可能性はある。廃棄されているものは、ほとんどが土器・石器で土偶・装飾品等は見られなかった。

以上、今回検出した若干の遺構・遺物について記述したが、膨大な廃棄場出土の土器・貯蔵



第14図 ミニチュア土器等 (右端は三角墳形土製品)

穴群の自然遺物等がまだ未整理のままである。今後、資料整理が進めば廃棄の方法、貯蔵の方法、生活域の中の住居域と貯蔵穴群との関係も明確になってくるだろう。

当遺跡において遺構・遺物の少なかった縄文時代草創期・前期も周辺の縄文時代の遺跡、特に川を挟んで東側の白谷岡ノ城北遺跡と関連付けで考えれば、当地の旧石器時代末から気屋式期まで1つの流れとしてとらえることができるだろう。

なお、今回の調査で検出した貯蔵穴群を含む谷部については、白谷土地改良区との協議・調整を経て同改良区の協力を得て山砂によって埋め戻し、遺構の保護を行った。一部分であるが遺跡の保存が行えたことは最大の成果かもしれない。

参考文献

- 小矢部市 1971 「小矢部市史」 上巻
砺波市 1990 「砺波市史」 資料編 I
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団
1982 「小矢部市埋蔵文化財分布調査概報 III」
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団
1985 「小矢部市遺跡地図古版」
小矢部市教育委員会
1991 「白谷遺跡群発掘調査報告」
小島俊彰 1974 「北陸の縄文時代中期の編年—戰後の研究史と現状—」
「大境 第5号」 富山考古学会
小島俊彰 1978 「第5章 縄文土器・土製品」 「上山田貝塚」 辰口町教育委員会
西井龍儀 1974 「富山県下の尖頭器の紹介」 「大境 第5号」 富山考古学会
橋本正・神保孝造
1973 「中田新遺跡」 富山県教育委員会
池野正男・柳井壯
1976 「岩崎野遺跡」 富山県教育委員会
狩野聰・島田修一・高井誠
1988 「花切遺跡」 人山町教育委員会

写 真 図 版



調査区全景（北より）



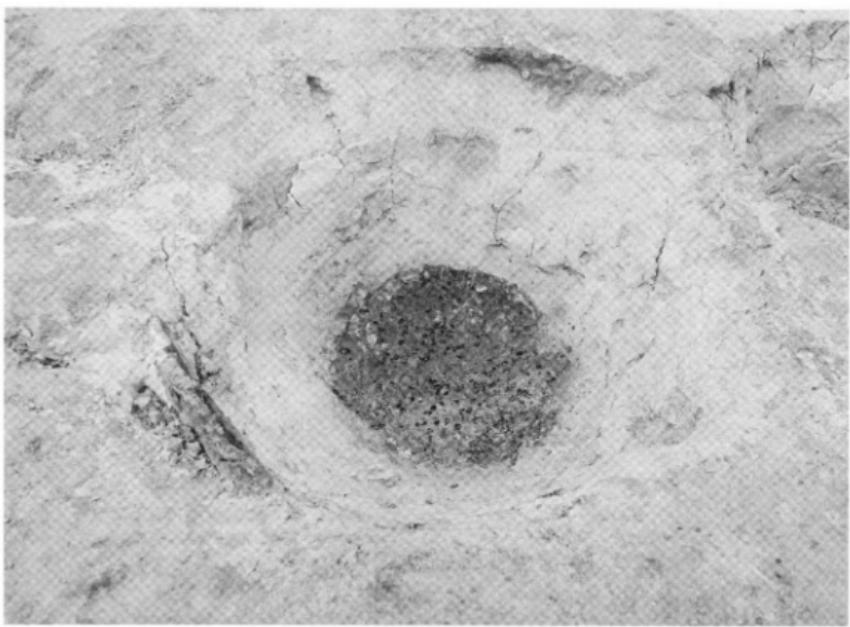
調査区全景（西より）



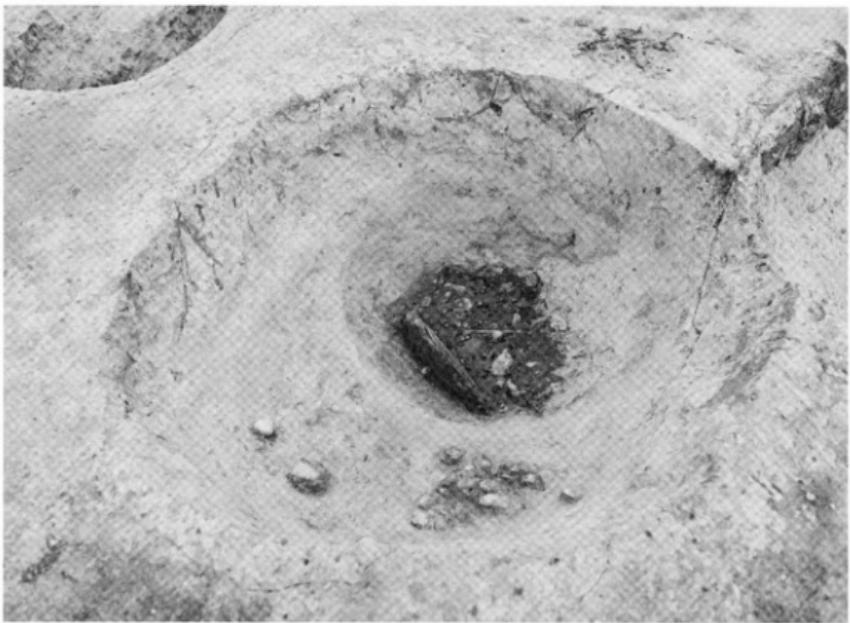
貯藏穴群（北より）



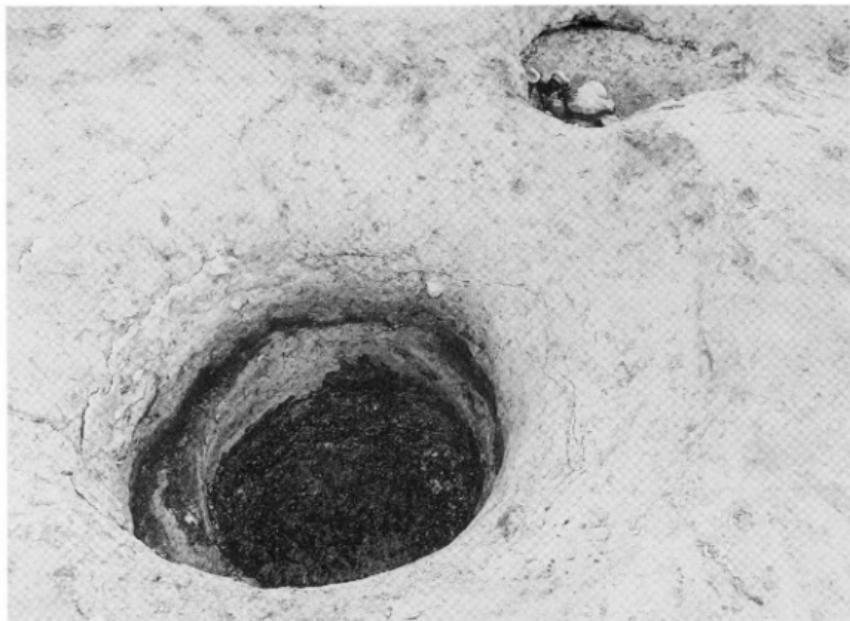
貯藏穴群



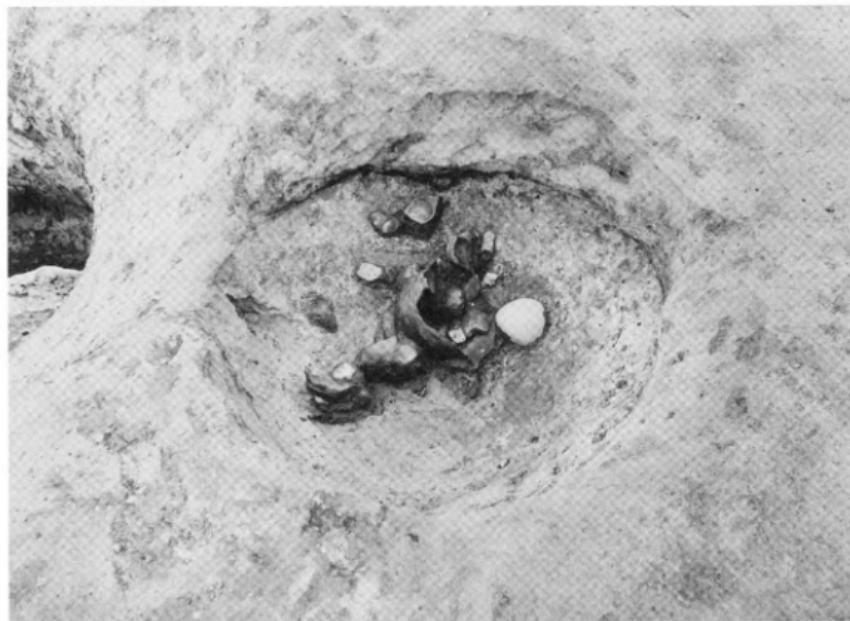
貯藏穴



貯藏穴



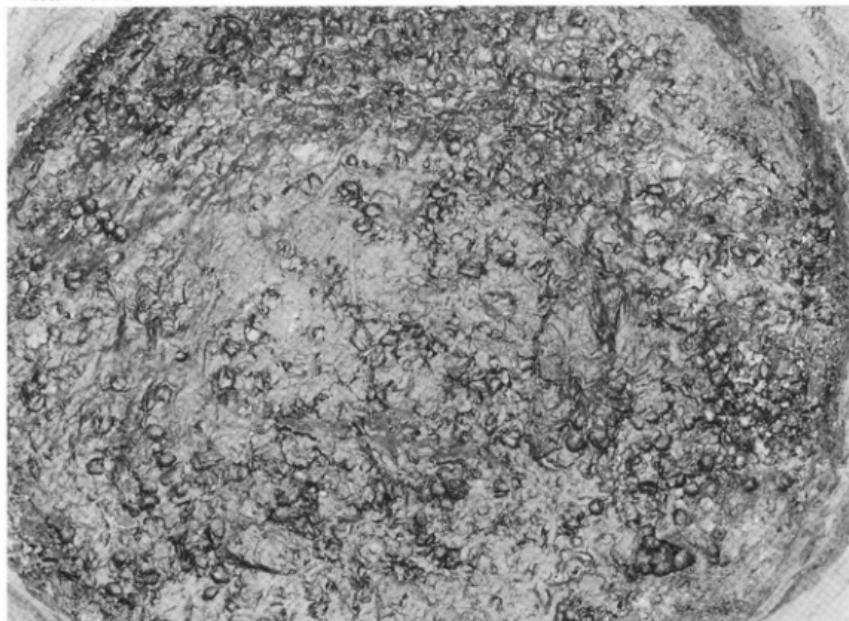
貯藏穴と土器土塙



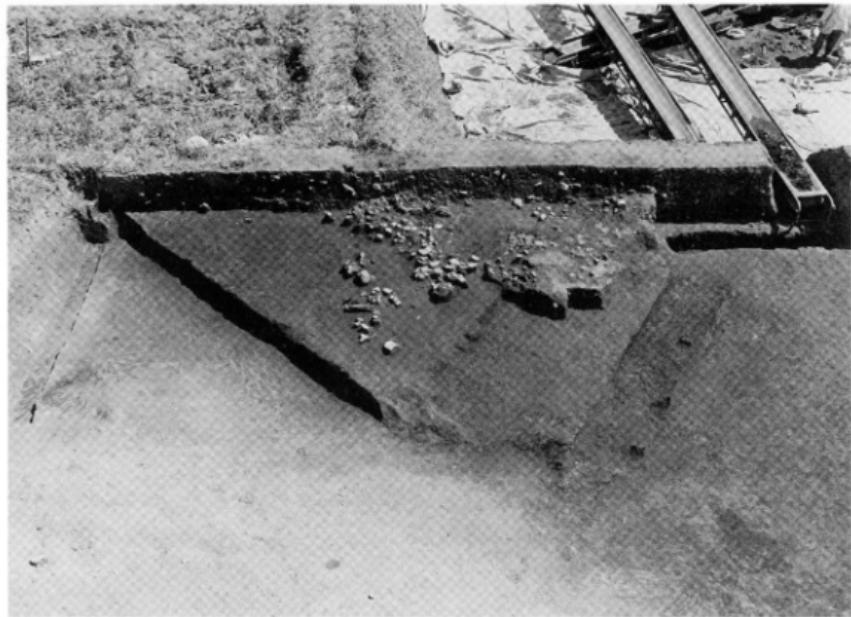
土器土塙



貯蔵穴（断面）



貯蔵された堅果類（ドングリ等）



6号住居跡（北より）



6号住居跡（断面）



6号住居跡（炉断面）



6号住居跡（炉断面）



9号住居跡（炉）



9号住居跡



7号住居跡（炉）



4号住居跡（炉）



井戸（中世）



井戸内部



6号住居跡

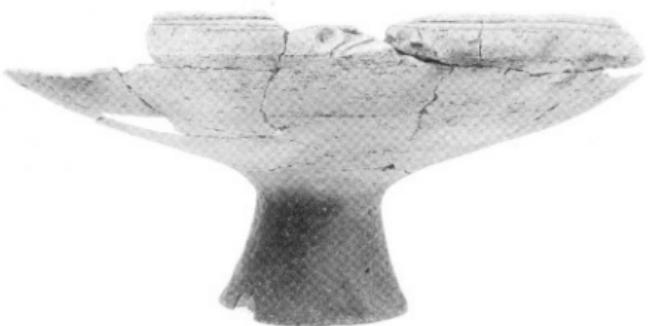
圖版
12



7号住居跡（炉内）



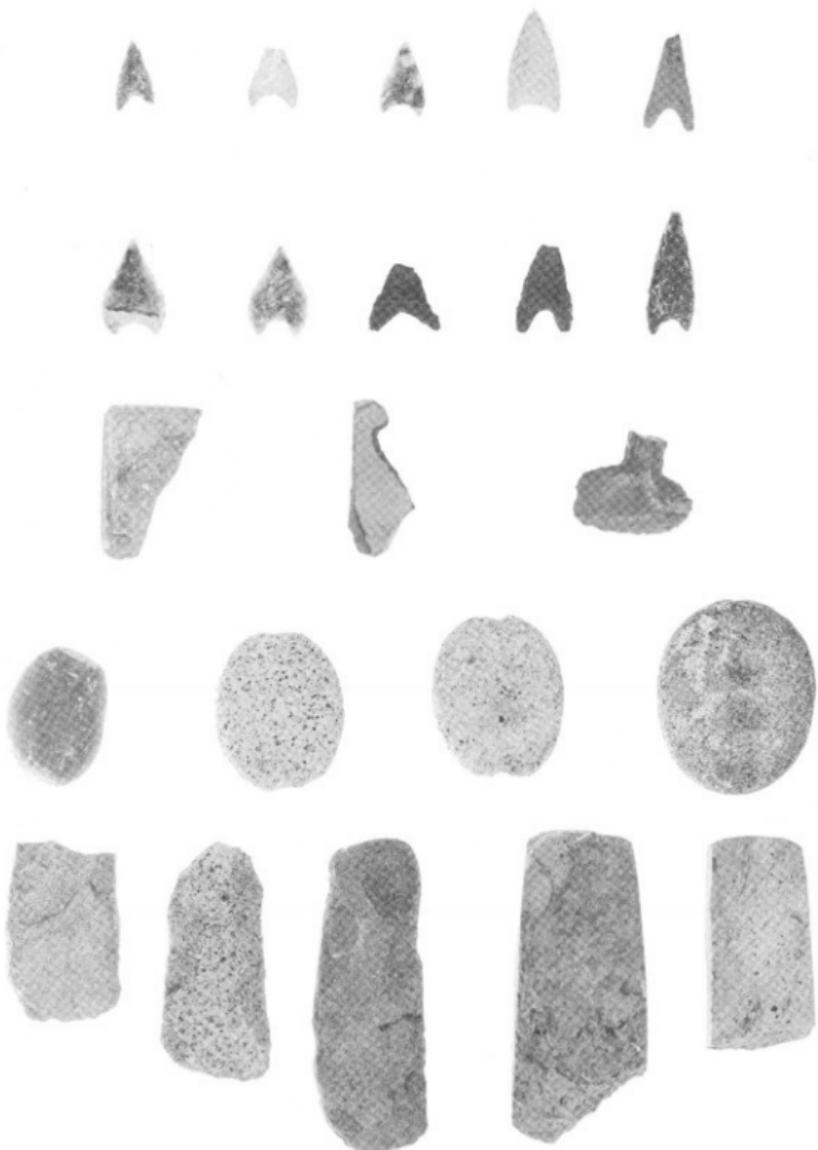
土器上塙内













調査風景

報告書抄録

| ふりがな | とやまけん おやべし うすたにおかむらいせき | | | | | | | |
|---------------|-------------------------------------|------|----------|-----------|------------|----------------------|-----------------------|---------------------|
| 書名 | 富山県 小矢部市 白谷岡村遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 白谷地区七地改良総合整備事業に伴う発掘調査 | | | | | | | |
| 編集者名 | 原田一成 | | | | | | | |
| 編集機関 | 小矢部市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒932 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766-67-1760 | | | | | | | |
| 発行機関 | 小矢部市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒932 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766-67-1760 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦1995年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積(m ²) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | °°' | °°' | | | |
| 白谷岡村 | 富山県小矢部市 白谷字岡ノ城 | 209 | 110 | 36°36'55" | 136°49'05" | 19940421 19950324 | 3600 | 七地改良総合整備事業 に伴う調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 白谷岡村 | 集落跡 | 縄文 | 住居跡、溝、土塁 | | 縄文土器、石器 | | | |

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第42冊

富山県小矢部市

白谷岡村遺跡

発行日 1995年3月31日
 編集・発行 小矢部市教育委員会
 (〒932 富山県小矢部市本町1番1号)
 TEL 0766-67-1760
 印刷 株式会社 アヤト

